

音源の比較試聴(6)

—シューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」—

1. 始めに

前報(5)に引き続き、各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の再構成はアースアキュライザーの活用(6)で述べたとおりです、今回もそれらの対策の効果を総合的に確認していきます。

音源は、各種音源のシューベルトのピアノ 5 重奏曲「鱒」を聴いていきます。

アナログ

RVC RVC-2125

タッシ

ジョセフ・シルヴァーステイン (ヴァイオリン)

プエル・ナイトリンガー (コントラバス)

日本コロンビア MS-1067-AX

マンハイムピアノ 5 重奏団

PHILIPS X-7843

アルフレッド・ブレンデル/クリーブランド弦楽 4 重奏団

STAGE+

リサ・パティアシュベリ (ヴァイオリン) 他

放送録画

デンハーグピアノ 5 重奏団

3. 音源の比較試聴の試聴結果

アナログ盤は、再生前に CD クリーナーで処理します。

アナログ盤 3 枚は、LINN LP-12 で再生します。そのうち、PHILIPS X-7843 盤は TohrensTD12 と Garad401 でも再生します。

まず、LINN LP-12 での再生ですが、次のようになりました。

RVC RVC-2125 盤は、これまでの印象では、音質的にも演奏も今一つの感がありましたが、生き生きとした演奏で、特にタッシのピーター・ゼルキンのピアノが力強く響きます。

日本コロンビア MS-1067-AX 盤は、これまでの印象では、音質的にも演奏も今一つ

の感がありましたが、今回は、生き生きとした演奏で、それぞれの楽器の質感も十分です。

PHILIPS X-7843 盤は、これまで以上に切れ味がよく、ブレンデルのピアノが輝きます。

以上のように、盤毎の特徴を描きわけながら、これまでの印象が随分と様変わりしています。

そして、PHILIPS X-7843 盤を TohrenSTD124 で再生しますと、これまでのダイナミックであるものの細かい表現は出にくかったのですが、弦のパートのニュアンスもピアノの輝きも、LP-12 に近づいています。

PHILIPS X-7843 盤を Garad401 で再生しますと、これまでの印象では、真空管フォノステージの穏やかなウオームトーンという感じが、切れ味もあり力強さも見せてくれています。

このように、プレイヤーの印象も変わってきて、全体的にレベルが上がってきています。

STAGE+の配信の演奏は、このところ評価用として、しばしば試聴しているものですが、弦の質感、ピアノの響き、コントラバスの量感など、安定した再生ができるようになっています。

放送録画の再生は、古楽器によるグループの演奏で、この演奏は演奏会で聴いています。ガット弦の質感やフォルテピアノの音色も演奏会の記憶を蘇らせてくれます。

4. まとめ

アナログプレイヤー3機種によるアナログ再生、配信サイトからのストリーミング再生、放送録画のいずれをとっても、アースアキュライザーの投入とそれに伴うアースラインの再構成の結果、すべて効果が明白に現れ、これまでに印象の変化もあって格落ちするような再生経路はなくなったことが確認できました。

以上